



- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさを拓く子ども



「おはよう」で結ぐ地域の絆

6月7日(金)
～地域あいさつ運動～

7時30分から能代警察署や少年保護育成委員の皆さんが、交通安全の旗を持ちながら玄関前に立ち、登校してくる子どもたちを元気なあいさつで迎えました。

子どもたちは、いつもと違う玄関前の光景に少し驚きながらも、元気にあいさつを返していました。

この活動を通して、交通安全の意識向上だけでなく、「おはよう」、「ってきます、いってらっしゃい」、「ありがとう」など、家族や友達、近所の人などと積極的にあいさつを交わす習慣も身に付けてほしいと思います。



あったか言葉の実いっぱいな～れ!



玄関前に掲示された「あったか言葉の木」に68個の言葉の実がつきました。

「いっしょに遊んでくれて、ありがとう」、「掃除の時間、下級生に優しく教えていて、かっこいいです」など、友達への感謝やよさを認める言葉がたくさん実っています。

あったか言葉は元氣や勇気を与える魔法の言葉です。



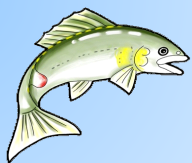
今週の一枚



6月4日から10日は、「歯と口の健康習慣」です。保健室前には、校内の標語大会で入賞した各学年の作品が掲示されています。
入賞作品は、6月4日配付の「ほけんだより」で紹介してしますので、ご覧ください。

今年度の活動スローガン「歯を笑え、未来を笑え」を見せよう。歯を笑え、未来を笑え。歯を笑え、未来を笑え。歯を笑え、未来を笑え。

水産教室(4年)



6月3日(月)、水産教室がありました。

鮎の稚魚を真瀬川に放流した後、児童からは、「鮎一匹でどれくらいの卵を産むのか」、「鮎のオス、メスはどのようにして見分けるのか」といった質問がありました。

一方、鮎が育つためには、エサとなる上質なコケが必要で、真瀬川は鮎が育つ環境が整っていることなど、興味深いお話を聞くことができました。

放流した稚魚が大きく育って真瀬川に戻ってくれることを願っています。



職場見学(6年)



6月6日(木)、職場見学を行いました。

訪れたのは、発泡スチロール製品の製造販売をしている「株式会社ノック」と、寝具・インテリア雑貨を製造販売している「Beech株式会社」。

職場の見学やインタビューを通して、働く方々の仕事をする上での工夫や努力について知ることができました。

見学後は、八森の魅力を紹介するパンフレットを作成する予定です。



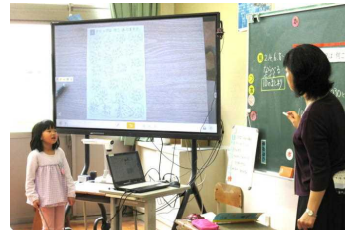
授業の様子から

今週は、県のICT事業でご指導いただいている指導主事の先生方が、授業を参観したり、実際に授業を行ったりしました。それらを中心に紹介します。



【1年】算数

4+3=7のたし算の式からお話作りに挑戦をしています。身の回りのものなどで、お話をすることで、楽しみながら学んでいました。



【2年】算数

3けたの数の読み方や書き方の学習です。10や100のまとまりにして数えるよさに気付いて、たくさん発表していました



【3年】社会

八峰町の土地はどのように利用されているのかを地図やグラフ、写真を見てまとめています。同地区であっても、様々な違いがありそうです。



【4年】国語

メディアによる情報についての説明文から、写真に目を向けさせるための筆者の工夫について読み取っています。



【5年】算数

「小数÷小数」の筆算の仕方について考えています。自分の考え方について、他の人に分かりやすく伝えようと努めていました。



【6年】算数

積が1になる2つの数はどのような数か、問題を解きながら考えています。「逆数」という新しい用語を覚えました。



国民性の違いが、それぞれの文化や歴史が背景にあることを考えると、各国の自己肯定感を同じ尺度で測ることは無理があるような気がします。

新しい知識や技能の追求を促し、自己の適性を正しく認識させることにつながります。

それは、手で触れ合うことで「幸せホルモン」であり、心を落ち着かせるなどの効果があるといわれる「オキシトシン」が分泌されることが理由です。

肯定感が顕著に低いといわれています。自己肯定感を育むためには「認めてもらう」という体験がとても大事です。言葉で褒めたり励ましたりするだけでもよいのですが、ハイタッチは、より達成感や喜びを深く感じる事ができる行為なのだそう。

つぎ

自己肯定感とは？



一年生の帰りのあいさつが教室から聞こえてくると校長室の入り口で待機するのが、最近の私の日課です。

その目的は、一年生とハイタッチをするため。待ち構えていると、元気に「さようなら」と言いながら、

ある児童はそつと優しく、またある児童は腕をしならせるほどの勢いでという具合に、思い思いのハイタッチをしていきます。また明日も元気で登校することを

願いながら見送っています。

さて、日本の子どもたちは他の先進国と比べ、自己

肯定感が顕著に低いといわれています。自己肯定感を

育むためには「認めてもらう」という体験がとても大

事です。言葉で褒めたり励ましたりするだけでもよい

のですが、ハイタッチは、より達成感や喜びを深く感

じることができるといわれるのだそう。

それは、手で触れ合うことで「幸せホルモン」であり、

心を落ち着かせるなどの効果があるといわれる「オキ

シトシン」が分泌されることが理由です。

よくスポーツ観戦をしていると、チャンスやピンチ

の場面で、選手同士がハイタッチやハグをする様子が

見られます。これも同じことが言えそうです。

自己肯定感を育むことは、前向きで自信のある言動

に結び付いていくわけですが、ここで日本人として考

えるのは、日本人特有の美徳である「謙虚さ」です。

相手を尊重し、自己主張を抑える日本人の言動が、

自己肯定感の高い欧米人との比較の際によく取り上げ

られますが、謙虚な振る舞いは、自己満足に陥らせず、

新しい知識や技能の追求を促し、自己の適性を正しく